



ぐんぐん すくすく！相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘 4 丁目 5-5
電話 0791-23-5070
FAX 0791-22-7211
E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp



◆先月に続き、次の4小学校でもケータイ・スマホ教室を実施しました。



中央小 6/11



双葉小 6/11



矢野小 6/25



若狭野小 6/25

「ケータイ・スマホ教室」の動画教材の紹介

「あの投こうが・・・」

動画・画像や SNS などは、正しく使えば楽しく、便利なものですが、使い方次第で、大きなトラブルになる可能性があります。気軽な投稿の怖さと投稿前にしっかりと考えることの大切さを説明します。

インターネットの世界



だれでも
見ることができる

顔を出さない

エスカレートしやすい

インターネットの世界



特定される

訴えられ
有罪

犯罪になる可能性も

「取りもどしたい時間」

スマホの SNS やゲームなどは、夢中になりすぎて、周りが見えなくなってしまうくらいのもり込んでしまうことがあります。ネットに支配されることなく、上手に使いこなしていく大切さを考えます。

あなたはいくつあてはまる？

- ☐ ネットに夢中になっていると感じる？
- ☐ 長時間、ネットしなければ満足できない？
- ☐ 時間をへらそうとして失敗したことがある？
- ☐ ネットで人間関係が悪くなったことがある？
- ☐ 熱中しすぎをかくすため家族や先生にウソ？

3つ以上 依存の可能性
2つ以上 要注意かも



依存を防ぐポイント

- ・ルールやマナーを守る
- ・利用をしっかりコントロール

フィルタリング
スクリーンタイム
ファミリーリンク

「こんなの余裕」

インターネットに掲載される簡単に高収入を得られるアルバイトは、大きなトラブルに巻き込まれる可能性があります。いわゆる「闇バイト」を取り上げ、インターネットの情報やそこで知り合う人を安易に信じることの危険性をお伝えします。

インターネットの世界



良い人ばかり
ではない

悪い人も...

信用するのはキケン
安易に判断しない

闇バイトのトラブル事例

男子中学生

キャッシュカードをだまし取ろうとし、逮捕

女子高校生

「受け子」「出し子」を繰り返し、逮捕

男子中学生・高校生

住宅へ強盗に入ろうとし、家庭裁判所に送致

女子中学生

他人のキャッシュカードで現金引き出し、逮捕

※この動画教材は YouTube (「KDDI スマホ・ケータイ安全教室」で検索) で見ることができるので、ご家族で振り返りにご活用ください。

「ながら見守り」

で子供たちを見守りましょう

「ウォーキング」をしながら
「ジョギング」をしながら
「犬の散歩」をしながら
「水やり」をしながら
普段の生活の中で



【大人が変われば 子どもも変わる】

助け合いの中で価値観が磨かれる

何よりも、先生という仕事のいいところは、一緒に仕事をしている周りの先生たちと助け合いながら仕事ができるということです。生徒に一大事があったときは、担任の先生だけでなく同じ学年の先生や、時には違う学年の先生にも一緒になって「どうしよう」「ああしようか、こうしようか」と、みんなが担任の先生と同じ気持ちになって真剣に考えて相談し合います。

先生に一大事があったときも、その先生の話聞いて相談に乗る人、その先生のフォローで代わりに仕事をする人、時にはその先生の代わりにクラスに行って生徒たちに話をしたり、説教をしたりすることもあります。私も周りの先生たちに助けてもらったことがたくさんあるし、その経験から「誰かが困っていたらすぐにフォローに行くぞ」という気持ちをずっと持ち続けています。

一緒に仕事をする先生たちと良い関係をつくりながら、少しずつ周りの先生からの自分の評価を上げていき、信頼される立場をつくっていく。そうしていきながら、生徒たちとの正しい接し方を実践し、他の先生にも見てもらい、見本となりながら周りに浸透させていくことが私の考えるベストな手順です。

「なぜかきらわれない生徒指導」(前 哲央著 東洋館出版社)より抜粋

失敗は「ダメ」じゃない

株植松電機代表取締役 植松 努

僕の小学校の通信簿にはいつもこう書かれていました。「集団行動ができない。落ち着きが足りない。忘れ物が多い」と。服はいつも後ろ前に着ていたそうです。

そんな僕が今、北海道の真ん中あたりにある赤平という町でロケットを作り、それを年に何回も打ち上げています。

ロケットの打ち上げて、成功するとても嬉しいです。もう何十回も飛ばしているのに毎回涙が出るくらいです。

でも正直、打ち上げなんかしたくないと思うこともあります。だって失敗するかも知れないんですから。失敗したら、いろんな人が一生懸命に頑張って作業してくれた苦労も、ロケットを作った巨額の費用も、そこにかけて時間も全てパーです。だから、ロケットを打ち上げる時は全員が青ざめ、吐きそうになります。

そしてカウントダウンが始まり、「ゼロ」になるとロケットが空へ飛んでいきます。その光景を見ると、喜びがお腹の底から湧き上がってきます。苦労を重ねて乗り越え、それがうまくいくから嬉しくて涙が流れるのです。

「失敗したらどうしよう」と

躊躇しても、少し勇気を出してそれをやってみることが大事です。

そんな経験を繰り返す中で素晴らしい思い出や素晴らしい仲間が見つかり、人生はよくなっていけます。必要なのはほんの少しの勇気です。

今、僕はこうして胸を張って「ロケットを作っています」と言えますが、作り始めの頃は酷かったです。

やっとロケットエンジンが完成して、それを試しに動かすと爆発ばかりしていました(笑)

気が付いたら僕の会社は「日本が一番爆発している会社」と呼ばれるようになりました。

ひどい称号ですが、悪いことばかりではありませんでした。爆発系の実験が新しい仕事としてたくさん集まってくるようになったのです。

普通はロケットが爆発したら「大ごと」です。でもうちの会社は、それでもたくさん実験し続けたんです。

それによって、いろんなノウハウが蓄積できて新しい仕事に繋がっていきました。

こうして僕の会社は、今では日本の民間会社で一番大きなロケットエンジンを作れるようになりました。失敗は全然ダメじゃ

やないということが分かりました。失敗はデータです。失敗してもたった二言で力になるのです。それが「なんでだろう?」と「だったらこうしてみたら?」です。

「失敗したくない」と考えるのは誰もがそうです。

失敗の可能性を具体的に考えて行けば、失敗の確率は極めて低くなるのです。

失敗しないための対策を考え、ちよつと勇気を出してやってみる。それが夢を実現していく上では大切なことです。



(日本講演新聞ジュニア

2025年4月号)

【うえまつ・つとむ】1988年生まれ。88年北見工大応用機械工学科卒業後、菱友計算株式会社航空宇宙統括部に入社。89年5月同社を退社し、植松電機入社。89年に植松電機株式会社に改組し専務取締役に就任。2006年12月、株式会社カムイスペースワークスを設立し、代表取締役に就任する。『不安な時代に踏み出すための「だったらこうしてみたら?」』(PMO研究所)など著書多数。